



## Q 前立腺がん検診導入は

相原 孝彦 議員

## A 検診手法の有効性なし

17年度に実施するがん検診

検診名	対象者	検診内容	検診料金
大腸がん検診	40歳、45歳、50歳以上の方	便の中に血液が混じっていないかを検査します。	300円
子宮がん検診	20歳以上の隔年（20歳、22歳と2を足していった年齢）の女性	子宮頸部（けいぶ）の細胞を検査します。また子宮や卵巣の病気の有無についても検査します。	集団 800円 個別 1,300円
肺がん検診	40歳～64歳の方	肺がん検診では、希望者へは、喀痰検査を行います。	300円 喀痰検査 2,520円

**Q1** 前立腺がんの集団検診の考えは。

**A1** 前立腺がんの検診としては、血液検査による前立腺特異抗原検査が一般的ですが、13年度に出された報告書「新たながん検診手法の有効性の評価」では「現時点では、検診による死亡率減少効果を判定する適切な根拠となる研究や報告が見られない」との結論が示されています。発生率が、肺がんや大腸がんに比べ、低い状況にあることから、限られた予算の中で有効なガン検診を実施していくため、現時点での集団検診の導入は考えていません。

**Q2** 乳がん・子宮がんの検診率は。今後の、受診負担額の増加は。受診率向上の対策は。

**A2** 受診率は、16年度は乳がん検診が19・7%、子宮がん検診が17・2%でした。15年度から、集団検診において一部費用徴収を開始し、乳がん検診で400円、子宮がん検診で800円を徴収しており、17年度も徴収金額の変更は予定していません。受診率の向上に向けては、対象者の精査とともに、地域での健康教室や家庭訪問、広報やホームページな

どで検診の重要性と「自分の健康は自分で守る」健康づくり意識の定着に向けた普及啓発に取り組んでまいります。

**Q3** 学校での性教育の実施は。

**A3** 学校での性教育は、学級活動はもちろんのこと、小学校では教科の「体育」の保健領域や中学校での「保健体育」の授業で、心と体の学習を年間を通じて行っています。村学校保健会でも、各学年の児童生徒の発達段階に応じて、医師や助産師等の方々から直接「いのちや性」についての講話をいただくなど、成果をあげています。今後、さらに家庭や関係機関と連携しながら、性教育の充実を図ってまいります。

**Q4** がんセンター誘致の考えは。

**A4** 県立中央病院が「地域がん診療拠点病院」として厚生労働大臣の指定を受けており、いわゆる「がんセンター」としての機能を果たしているものと認識しておりますので、誘致は考えていません。